

# 浜須賀地区 防災都市づくりニュース

平成23年 11月6日 [日] 浜須賀地区防災都市づくりワークショップ開催

# VOL. 3

浜須賀地区で、浜須賀地区防災都市づくりワークショップを開催しました

## 第3回 浜須賀地区防災都市づくりワークショップを開催

第3回ワークショップでは、まち歩きの結果をふまえて、今から浜須賀地区でできる具体的な取り組みについて考えました。

第2回ワークショップに続いて、第3回ワークショップでも、浜須賀中学校の生徒さんにご参加いただき、幅広い議論が行われました。

### <第3回WSの内容>

日時:11月6日 [日] 9:30-12:00

場所:浜須賀会館

参加人数:58名

- ★中学生による発表
- ★グループ討議
  - ・防災上の特徴と課題
  - ・個人でできること、地域でできること
- ★発表

## 中学生による発表

第2回ワークショップの結果をうけて、浜須賀中学校の生徒のみなさんが事前に学校で話し合ってきた内容を、発表してくださいました。

テーマ:「地域の良いところ、悪いところ」「今後の取り組み」



### ●良いところ

- 海岸線にある松林が魅力的。元々、砂防林として地域の安全を守る目的でつくられたものですが、景観としても街並に溶け込み、非常に風情がある。
- ラチエン通りや国道134号線など県外の人にもよく知られる通りは、道案内の際に役に立つ。
- ボランティアやお祭りなどの地域活動が活発なため、地域の人たちと仲が良い。

### ●悪いところ

- 街灯が少ないため、夜になると暗くなってしまいう道が多い
- 大きな道路以外は道幅が狭く行き止まりも多いため、自動車での通行が困難
- 曲り角に死角が出来るため、事故につながりかねない場所がある

### ●今後のとりくみ (茅ヶ崎をよりよいまちにしていくために)

- 東日本大震災のことも参考にし、いざ災害が起きた時の避難場所を家族で話し合っておく
- 死角を出来るだけ減らすため、角を削ったり、「一旦止まれ」などと書いた看板を置いたりする

# グループ討議 & 発表!

## 1班

- 高齢者など災害時の要支援者対策を地域で考える。
- 近所の方との日頃からのコミュニケーションが大事。
- 一次避難場所の設置個所やそこでの活動内容を考える。
- 一時避難所から広域避難所までの避難路を考えたい。

### ●今後の進め方のアイデア

- ・日常的なあいさつや声かけが、いざという時の安否確認に役立つ (玄関に「助けて」などの掲示→安心カード)
- ・自分たち自身で3日間ののげるよう、心構えや備品の確認、備え
- ・一時避難場所の設置 (空地の活用)
- ・サークル活動でコミュニケーション (囲碁、ストレッチ太極拳など)
- ・高齢者向けの防災訓練 (昼・夜)
- ・外出時の安否確認の方法を考える
- ・情報共有の仕組みづくりをどうするか?
- ・防災関連のパンフレットを全戸に配布
- ・消火栓やマンホールの色をわかりやすく目立つように
- ・ラジオなどで緊急告知 (要介護支援の方にはFMラジオの貸出しを)
- ・行政に防災指導を要請
- ・「行き止まり」など案内板の設置



## 2班

- 人材が豊富。球技大会では体育委員を中心に若い世代のまとまりがよく、子育て世代を中心に隣近所との付き合いが多い。
- そういう方を中心に、一人でも多く自治会や防災に取り込んで、共通認識のもとに災害を最小限に留める努力をしていきたい。

### ●今後の進め方のアイデア

- ・避難ルートや道が塞がった時の対応を決めておく
- ・あいさつや声かけで近所との交流を深める
- ・メールを活用して、防災だけでなくいろいろな情報発信
- ・参加者を集める工夫 (体育委員などに声をかけてみる)
- ・夜のパトロール
- ・防災倉庫の中の確認
- ・台風の後や夏休みなどを利用して子供たちと清掃活動
- ・集まりの時に防災情報をお知らせして意識啓発
- ・地域で消火栓を使えるようにしておく



# グループ討議 & 発表！

## 3班

- 普段からの準備と防災の意識レベルを高くしていこうということ、特に家族で話し合うことが大変重要
- 要援護者への対応は、自治会や隣近所との助け合いが一番重要
- 樹木やプランターなど、いざという時に避難路を妨げてしまう危険性があるものをどうするか

### ●今後の進め方のアイデア

- ・家族で話合うなど、意識を持って普段から備える
- ・災害に応じた避難方法など、地域に即した広報活動
- ・要援護者への対応は、隣近所での助け合いが基本
- ・広報誌を活用して、プランターに留め具を付けたり、位置を工夫するよう呼びかける
- ・郵政省宿舍、静岡銀行宿舍の活用
- ・ゴルフ場北側に緊急避難場所を設置できないか？
- ・将来的には、浜須賀小・中の屋上を避難場所として利用できるようにしたい
- ・建て替えが進めば道幅は広がるのでは？



## 5班（中学生班）

- 意識の問題。「松林を増やして植物を大事にする」→「植物を愛する」→「何かを守る」→防災への意識UP！
- 祭りの一部に防災コーナーを設けて、防災意識を高める。
- 地域の人とあいさつをすることで、防犯意識も高める。
- 中学生による消防団やレスキュー隊をつくる！

### ●今後の進め方のアイデア

- ・ブロック塀の補強
- ・家族で避難場所や経路を決めておく（防災グッズの準備も）
- ・松林を増やし、植物を大切にすることを呼びかけることで防災の意識アップにつなげる
- ・お祭りの一部に防災コーナーを設ける
- ・防災マンなどのキャラクターを作って、より身近に感じてもらう
- ・ボランティア活動に積極的に参加することで、交流も災害時の協力度も良くなる
- ・あいさつを続けていく→いざという時の助け合いにつながる
- ・消火器のある場所、使い方を知っておく
- ・中学生消防団・レスキュー隊をつくる



## 4班



- 若い世帯を中心としたコミュニティはある程度形成されている。
- 若い世代は、イベントには来てくれるが地域活動には少し消極的。
- 地引網と餅つき大会には若い世代も積極的に協力してくれるので、そういうイベントの時に防災関連のゲーム感覚でできる内容を取り入れてはどうか。

### ●今後の進め方のアイデア

- ・日常的な家族での話し合い
- ・年代別に防災訓練の実施、参加の呼びかけ
- ・イベント時にゲーム性のある企画で若者を取り込む
- ・防災無線の改善、メール配信サービスの活用
- ・地区を越えた合同防災訓練を恒例化していく
- ・学校と地域のつながりづくり
- ・避難経路の道順や海拔表示を増やしてほしい
- ・地元住民以外の人のためにも、避難所経路や広域避難場所の表示を

## 加藤先生のコメント

- 人と人とのつながりがこのまちの資源で、それを伸ばしていくというのがみなさんの共通の意見でした。
- また、球技大会や地引網、お祭りといったイベントが防災力を高める一つの道具になっているというのも共通した意見で、「防災」という言葉はあまり人を惹きつける魅力のない言葉だと思っていますが、こういったイベントと組み合わせることで、楽しみながら防災に取り組めるのではないかと思います。
- 「松を知る」、「海を知る」という話が印象的でした。「松を知る」というのは、“自分のまちを知る”ことで、「海を知る」というのは“海のリスクを知る”こと。海に親しむ、地域の環境を見つめるという長期的な活動を継続していくと防災力を高めることにつながるのではないかと。
- 今後の方向性が見えてきた一方で、すぐにできることを含め、改善すべきこともたくさんある。細かい問題を解消しつつ、長期的には、このまちの良さを活かしながら地域防災力が高まっていくのかなという印象を受けました。
- 今回の議論を踏まえて、次回はもう少し具体的に、地域としてこんなことができそうだということを検討いただければ、よりよい成果につながっていくと期待しています。

## 第3回防災都市づくりワークショップの感想

### ●地域の特徴と課題

- 3回目になり内容も各班共通認識が出てきて、同じ問題に取り組んでいると感じました。
- 茅ヶ崎の道がやはり狭い、行き止まりが多いとの意見が多かった。
- 近所との付き合いが必要と再認識されました。
- コミュニケーションや情報共有など、どこの地域でも同じ問題があることがわかりました。その中でも3回目となると、より具体的な解決策も出てくるので、根付いていきやすいのではないかと思います。また、課題についても、考え方ひとつで短所が長所、長所が短所になる事も感じる事ができましたし、共通の問題の中でも戸建とマンションで対応策も変わってくる可能性もあると思いました。
- 皆で話し合っているうちに自分の地域の特徴が見えてきて良かった

### ●今後の取り組みのアイデア

- 地域の特徴として人材が豊富とありました。町づくりは人づくりと考えると素材はあるといえます。それをどう使うか、つなぐかを知恵を合わせれば可能であると感じました。
- 世代間の交流、情報の共有をしていく必要がある。
- 海のそばというリスクをどう回避し、この地で生きていくか考えていきたいと思います。
- 知っている自治会の人と交流して、他の自治会ではどういった防災の取り組みをしているのか細かく調査してみたいです。
- 若い世代の人もイベントなどに参加してくれるので、集う機会に防災に関するイベントなども組み込んで日頃から防災の意識を高めてもらいたい。
- 小学校（緑が浜）が避難場所になっているので、地域の住民がもっと学校に足を運べる機会を増やしていく。
- 地域コミュニティの充実、若い人の力を利用する、出来る活動・イベント等を行う。
- 行政と自治会長経由で地域の人や自治会会員に情報を流す必要。

### ●その他の感想

- 浜須賀地区（今回の出席者）には地域の事を本当に考えている人が多いと感じ、私もその仲間入りしなくてはと改めて思いました。
- 今後、自治会としては何をしていけば良いのかを考えていきたい。
- 話し合える時間がたくさんあったので、意見がたくさん出ました。
- 学校側と自治会との信頼関係が大切。
- 発表はどのグループもわかりやすく、特徴がつかめた。
- 翠松会では、防災に関するアンケートを春にとりました。各世帯の構成も含め、ほぼ全世帯が回答をくれ、そこに不安や資料・情報の無さなどが書かれていました。それを活かした取り組みをしたいと考えています。地域が安心して過ごせるまちづくりを少しでも目指せたらいいなと思いを新たにしました。

### ●中学生の感想

- 松を育てる→植物を守る→人を守る→災害時に周りの人を守るという意見が出た時はすごく感心しました。ほかにも自分が考えてもみなかった意見が出てすごくおもしろかったです。次回も楽しく頑張りたいです。
- 他のグループの発表を聞くと、意見が違ったり同じだったりして楽しかったです。みんなが同じ意見だったら、地域はそのひとつの意見で動くだけで、そんなにいい地域にならないと思います。たくさんの意見があるから、もっといい地域ができるんだと思います。私たちのグループが出した「消防団第2軍」、作りたいと思いました。消防団は大人がやるので仕事をしていたらすぐに助けに行けないけれど、中学生は部活をしているので大人よりもすぐに行けると思うし、人助けはいいことなのでやりたいと思いました。
- 防災のことに興味を持って、いざとなった時に避難が出来るように、お祭りやイベントなどの一部で防災コーナーを作り、関心を深めたりする。知らない人や地域の人に挨拶をして交流を深め、何かあった時には助けをもらったり、防犯にもつながるといこと、などのたくさんの防災力を高めていくことができる意見が出ました。それらの中で私たちが実際に行動できることをたくさん見つけて行動していきたいです。
- 今回は4つの目で地域の防災の事を見ることが出来て良かったです。他のグループの発表を聞いて、小学校の「学校へ行こう週間」は、授業を見る以外に、教室がどうなっている、このような避難ができる、なども見られるいい機会なんだなと思いました。また、普段遊んでいる公園やお祭りでも地域との交流も出来るので、こういうお祭りに行くことも防災につながる大切なことだという事がわかりました。ほんの少しの行動の積み重ねが、本当に大きな力になると思うので、大切にしないといけないと思っています。
- 浜須賀地区は松林が沢山あったり、地域の交流が多数あるため、非常に良い地域だと思うけれど、意識の問題では、挨拶を知らない人にも出来るようにだとか、災害時にどうするべきか話し合っておくなどの大事なことが欠けている事がわかりました。
- 今日もっとも印象に残ったのが「悪いところ、良いところの裏付けを考える」というところでした。「良い点とは、リスクを考えた上での良い点なので、リスクが無い良い点などはない」ということを感じました。また、その「リスク」を考えることで、それが本当の良い点かどうかを考えることができる。討議していく際にはそこに気をつけて、次回の最終回に活かしたいと思います。また、そのリスクをどう活かすことができるか、という所も考えることができれば、より深い意見を言うことができるので、次回はそれも踏まえて発言討議を進めたいと思います。